注2
・下肢の腫痛するもので、衰弱の傾向がある場合。
・膝関節や足関節が腫れて痛み、筋肉が痩せて下肢が細くなったもの（気血衰弱）
・下肢の関節炎、慢性関節リウマチ、神経痛

注3
・関節リウマチ：慢性症で、気力が衰え、貧血し、数年間も癒えないものに用いる。

注4
・関節リウマチ：慢性のもので、気血両虚の衰弱したものに用いる。比較的体力が衰えず、食欲もあり、それでいて関節の腫脹や疼痛がながく残っているものによい。

注5
・慢性関節リウマチ、気血両虚
熱が去り腫脹、疼痛だけが残って、筋肉がやせ細り歩行が困難となり、年を経て治らないものによい。

注6
慢性関節リウマチ、脚気

注7
・下肢痿弱
・慢性に経過して虚状を帯び、貧血気味となった下肢の運動麻痺と疼痛に用いる。（慢性に経過して体力衰え、貧血性となり、熱状なく、下肢の運動障害を起こし、栄養も障害されて削痩し、歩行困難または歩行不能となり、あるいは関節強直を起こして年月を経たものに用いる。）慢性関節リウマチ、脊髄痨、脊髄炎、半身不随、脚気、産後の痿躄（下肢運動麻痺）

注8
・腿膝疼痛、鶴膝風、附骨疽、脛膝痛む等

注9
・慢性関節リウマチ、脊髄痨、陰虚証の脊髄炎、半身不随、脚気、産後の痿躄

注10
・（急性関節リウマチ、淋疾性関節リウマチ、結核性関節リウマチ、梅毒性関節リウマチ、続発性関節リウマチ、原発性関節リウマチ、奇形性関節炎、肩関節周囲炎）
・痩せ型の人で、患部の関節は腫れているがその周囲の肉が落ち、皮膚に艶がないとき（桂枝芍薬知母湯）、病状が更に進み、貧血気味の虚した状態の人
・結核性関節炎は古くは鶴膝風と称されたもので、虚証で熱のないときに用いる。

注11
筋肉麻痺、あるいは膝腿痛、脊髄疾患、半身不随、脚気

注12
慢性関節リウマチで、関節が腫れてその周囲の肉がおち、皮膚の光沢を失っているものに用いる。患者は痩せて栄養が悪く、おかされた関節には熱感がなく、衰弱している。

注13
慢性関節リウマチ、脚気

**処方番号**：143　　**処方名**：治打撲一方（ぢだぼくいっぽう）

**処方構成**：

川芎 3、樸樕（又は桜皮）3、川骨 3、桂枝 3、甘草 1.5、丁子 1-1.5、大黄 1-1.5

**用法・用量**：

湯

**しばり**：

体力に関わらず、はれ、痛みがあるものの次の諸症

**効能・効果**：

打撲、捻挫

**原典**：一本堂医事説約

**出典**：勿誤薬室方函

**解説**：

香川修庵の経験方である。処方名の如く打撲、捻挫、骨折などに適用し治癒を促進する効果がある。浅田宗伯の『勿誤薬室方函口訣』には「この方は能く打撲、筋骨疼痛を治す。・・日久しき者は附子を加える。」とある。

打撲・捻挫骨折などは瘀血と考え、駆瘀血剤が多用されるが本方も駆瘀血剤の一つと考えて良い。

新しい打撲や捻挫は急性瘀血として桃核承気湯、桂枝茯苓丸、通導散あるいは本方が適応する。臨床では慢性化した場合には本方に附子を加えて用いている。

## 143.治打撲一方

| 参考文献名 | | 川芎 | 樸樕 | 萍蓬（仙骨） | 桂枝 | 甘草 | 丁香 | 大黄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 処方解説 | 注1 | 3 | 3 | 3 | 3 | 1.5 | 1 | 1 |
| 診療の実際 | | 3 | 3 | 3 | 3 | 1.5 | 1 | 1 |
| 処方集 | 注2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 1.5 | 1.5 | 1.5 |
| 処方分量集 | | 3 | 3 | 3 | 3 | 1.5 | 1 | 1 |
| 漢方診療ハンドブック | | – | – | – | – | – | – | – |

注1　打撲による腫脹疼痛に内服する。

注2　打撲筋骨疼痛

**処方番号**：144　　**処方名**：治頭瘡一方（ぢずそういっぽう）

**処方構成**：
連翹 3、蒼朮 3、川芎 3、防風 2、忍冬 2、荊芥 1、甘草 1、紅花 1、大黄 0.5

**用法・用量**：
湯（小児については解説に記載あり）

**しばり**：
体力中等度あるいはそれ以上のものの顔面、頭部などの皮膚疾患で、ときにかゆみ、分泌物などがあるものの次の諸症

**効能・効果**：
湿疹、皮膚炎、乳幼児の湿疹

**原典**：勿誤薬室方函
**出典**：

**解説**：
日本の経験方で大芎黄湯とも呼ばれる、福井家経験方はこの方の紅花、蒼朮を去り、黄芩を加えたものである。
小児の胎毒による頭瘡を主治するが、一般に実証で便秘するもので、顔面、顎部などの湿疹に応用する。便秘しないものには大黄を除いて使用する。小児ばかりでなく、少年や大人にも応用される。分量は大人量の標準であるから、小児に使用するときは、用量を減量のこと。本方は解毒の作用が主で、類方の清上防風湯は薬性が苦寒の寒性血剤が多く配伍されていて、清熱の効を主とする違いがある。

## 144.治頭瘡一方

| 参考文献名 | | 連翹 | 蒼朮 | 川芎 | 防風 | 忍冬 | 荊芥 | 甘草 | 紅花 | 大黄 | 用法・用量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 診療の実際 | 注1 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 1 | 1 | 1 | 0.5 | |
| 後世要方解説 | 注2 | 3.5 | 3 | 3 | 2 | 2 | 1.5 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | |
| 漢方医学 | 注3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 0.5 | |
| 治療の実際 | 注4 | 4 | 4 | 3 | 3 | 3 | 4 | 1.5 | 2 | 2 | |
| 診療医典 | | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 0.5 | |

注1 中和解毒の効あり，小児の頭瘡で，分泌物，癬痒，痂皮を認めるもの，少年や大人にもよい。実証で下剤の適応するものが多い。便通のあるものは大黄を去る。小児の頭部湿疹，胎毒下し，諸湿疹に用いる。また顔面，顎部，腋窩，陰部などに発赤，丘疹，水泡，びらん，結痂を作るものに広く応用する。

注2 頭瘡を治す一方。小児頭部湿疹，胎毒下し。小児の胎毒により頭瘡を発したものを主治するものであるが，その他すべての上部顔面に瘡を発したものによい。清上防風湯清熱を主とし，この方は解毒の力が強い。実証に属する下剤の適応するものによく奏効する。1～2月以上連用して差しつかえない。

注3 俗に胎毒と呼ばれる乳幼児の湿疹に用いる。便秘しないものは大黄を去ってよい。

注4 大芎黄湯に同じ。

**処方番号**：144A　　**処方名**：治頭瘡一方去大黄（ぢずそういっぽうきょだいおう）

**処方構成**：
連翹 3、蒼朮 3、川芎 3、防風 2、忍冬 2、荊芥 1、甘草 1、紅花 1

**用法・用量**：
湯（小児については解説に記載あり）

**しばり**：
体力中等度以下で下痢傾向があるものの顔面、頭部などの皮膚疾患で、ときにかゆみ、分泌物などがあるものの次の諸症

**効能・効果**：
湿疹、皮膚炎、乳幼児の湿疹

**原典**：勿誤薬室方函
**出典**：

**解説**：
日本の経験方で大芎黄湯とも呼ばれる、福井家経験方はこの方の紅花、蒼朮を去り、黄芩を加えたものである。
小児の胎毒による頭瘡を主治するが、一般に実証で便秘するもので、顔面、顎部などの湿疹に応用する。便秘しないものには大黄を除いて使用する。小児ばかりでなく、少年や大人にも応用される。分量は大人量の標準であるから、小児に使用するときは、用量を減量のこと。本方は解毒の作用が主で、類方の清上防風湯は薬性が苦寒の寒性血剤が多く配伍されていて、清熱の効を主とする違いがある。

**処方番号**：145　　**処方名**：中黄膏（ちゅうおうこう）

**処方構成**：
ゴマ油 1000ml、黄ロウ 380、鬱金 40、黄柏 20

**用法・用量**：
外用

**しばり**：
（しばりなし）

**効能・効果**：
急性化膿性皮膚疾患（はれもの）の初期、うち身、ねんざ

**原典**：春林軒膏方
**出典**：

**解説**：
（ゴマ油をよく煮て水分を蒸発させ、これに黄ロウを加えて溶かし、布で濾過し、やや冷えた頃粉末にした鬱金、黄柏を徐々に混合し、攪拌しながら凝固させる）
華岡青洲の家方で、原方には黄連が加味されているが、浅田宗伯の方函には黄連を欠いていて、一般にはそれに準拠している。黄連解毒湯を軟膏にしたようなもので、熱性の皮膚疾患や化膿、うちみ、ねんざなどに、熱を去り、排膿を促進し、疼痛を緩解し、出血を止め、鬱血を散らす効がある。ガーゼや軟らかい和紙に塗布して、患部にはりつける。冬季や寒冷時に使用するものは、黄蝋を減量し稠度を調えるか、加熱して軟らかにして使用する。

## 145.中黄膏

| 参考文献名 | | ゴマ油 | 黄ロウ | 宇金 | 黄柏 | 黄連 | 用法・用量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 勿誤薬室方函 | 注1 | | | | | | *1 |
| 診療の実際 | 注2 | 1000 | 380 | 40 | 20 | | *2 |
| 応用の実際 | 注3 | 1000 | 380 | 40 | 20 | | |
| 診療医典 | | 1000 | 380 | 40 | 20 | | |
| 明解処方 | 注4 | 1000 | 380 | 40 | 20 | 20 | *3 |
| 漢方医学 | | 1000 | 380 | 40 | 20 | | |
| 治療の実際 | | | | | | | |

*1 華岡青洲の家方では宇金、黄柏、黄連の3味を水で煎じ滓を去って、胡麻油、黄ろうを加え、水分が完全に尽きるまで加熱して後に濾過する。浅田宗柏の方函では、胡麻油と黄ろうを煮て、水分を去り、絹布で濾過してやや冷えるのをまって、宇金、黄柏、(黄連を加えない)の粉末を徐々に入れ、攪拌混合する。

*2 胡麻油をよく似て、水分を蒸発させ、黄ろうを入れてとかし、布でこし、やや冷えたころ、うこん、黄柏末を徐々に混合し、かきまぜながら凝固させる。

*3 青洲の原方により、黄連を加味した処方を採用する。

注1 浅田宗伯の勿誤方函では，膿の有無を問わず，新旧を論ぜず，毒を散らし熱を除く。血毒，痔毒，疳毒，頑癬，たむしなど，およそ熱痛するものを治すとしている。

注2 産後乳房炎の初期，瘰疬の初期痛み激しい時，吸収を早め，開口，排膿を促進する。

注3 体表部の諸種化膿性炎症，腫瘍などで腫痛するものに外用する。

注4 (1) 化膿性疾患で，赤腫・疼痛して未だ潰れないものに用いる。(2) 打撲で熱をもって痛む場合，動物の噛傷，鼻孔中の腫物にも用いる。

応用 化膿症，打撲症，噛傷，凍傷

**処方番号**：146　　**処方名**：調胃承気湯（ちょういじょうきとう）

**処方構成**：
大黄 2-2.5、芒硝 1、甘草 1

**用法・用量**：
湯

**しばり**：
体力中等度なものの次の諸症

**効能・効果**：
便秘、便秘に伴う頭重・のぼせ・肌あれ・ふきでもの・食欲不振（食欲減退）・腹部膨満、腸内異常発酵・痔などの症状の緩和

**原典**：傷寒論
**出典**：

**解説**：
大承気湯の枳実、厚朴の代りに甘草を用いた処方である。一種の緩下剤で、胃腸の機能を調整する効能がある。少量ずつ服用する。
大黄、甘草を煎じ、滓を去り、芒硝を入れて再び火にかけ、少し沸騰させて溶解し、服用する。一般にはそのまま煎じて服用することが多いが、正しくは前記のようにする。

## 146.調胃承気湯

| 参考文献名 | | 大黄 | 大黄（酒洗） | 芒硝 | 芒消 | 芒消（硫苦を使う） | 硫酸マグネシウム | 甘草 | 甘草（炙） | 用法・用量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 処方分量集 | | 2 | − | 1 | − | − | − | 1 | − | |
| 診療の実際 | 注1 | 2 | − | 1 | − | − | − | 1 | − | 少量ずつ服用する |
| 診療医典 | | 2 | − | 1 | − | − | − | 1 | − | 少量ずつ服用する |
| 症候別治療 | 注2 | 2.5 | − | 1 | − | − | − | 1 | − | |
| 処方解説 | | ( ) | − | ( ) | − | − | − | ( ) | − | |
| 後世要方解説 | | − | − | | − | − | − | − | − | |
| 漢方百話 | | − | − | − | − | − | − | − | − | |
| 応用の実際 | | 2.5 | − | 1 | − | − | − | 1 | − | |
| 明解処方 | 注3 | 2 | − | 1 | − | − | − | 1 | − | |
| 漢方処方集 | | 4 | − | − | − | − | 8 | 2 | − | 頓服　便法　水半量で常煎法、左を3回に分服 |
| 新選類聚方 | | − | 4 | − | 6.5 | − | − | − | 2 | 頓服量 |
| 漢方入門講座 | | − | 4 | − | − | 8 | − | 2 | − | 頓服量　もし慢性病で持続服用するならこの分量を1日量として用いてよろしい |
| 漢方医学 | | 2 | − | 1 | − | − | − | 1 | − | |
| 精撰百八方 | | − | − | − | − | − | − | − | − | |
| 古方要方解説 | 注4 | 6.4 | − | − | 3.2 | − | − | 3.2 | − | 1回あるいは2回に温服す |
| 成人病の漢方療法 | | − | − | − | − | − | − | − | − | |

注1　一種の緩下剤にして，胃の機能を調整する効がある。一般に本方証の患者は，大小承気湯を用いるほどではないが，腹部が充実して便秘の傾向がある。急性熱性病の経過中に，悪寒せずにただ熱発し，口舌が乾き，便秘するものに頓服として用いることがあり，便秘殊に老人の便秘，小児の食傷，齲歯の疼痛等にも用いられる。

注2　承気というのは順気の意で，気のめぐりをよくすることである。大小承気湯もこの調胃承気湯もともに，気のめぐりをよくして便通をつける作用があるが，この3つの中で調胃承気湯は，もっとも作用が緩和である。そこで病後の便秘，老人の便秘などで，口や舌が乾いて，腹がはり気味のものに用いる。また熱病で便秘しているときに，頓服として用いることがある。けれども，このさいには脈が沈実で腹にも弾力があることが条件となる。

注3　南涯「内病なり。熱実して心に迫るものを治す。その証，譫語，蒸々発熱，これ熱実の症なり。曰く心煩，鬱々微煩，これ心に迫るなり。その劇しきものは大便溏，下痢，腹微満，脹満，これ血気，心に迫るをもって，腹中の水を消化する能わざるなり。」

注4　……故に方極にいわく「大黄甘草湯証ニシテ，実スル者ヲ治ス」と。又，類聚方にいわく「按ズルニ，但ダ急迫シテ大便通ゼザル者，之ヲ主ドル」と。この説，能く本方の効用を約言せりというべし。

**処方番号**：147　　**処方名**：丁香柿蒂湯（ちょうこうしていとう）

**処方構成**：
柿蒂 3、桂枝 3、半夏 3、陳皮 3、丁子 1、良姜 1、木香 1、沈香 1、茴香 1、藿香 1、厚朴 1、縮砂 1、甘草 1、乳香 1

**用法・用量**：
湯

**しばり**：
体力中等度以下から虚弱なものの次の諸症

**効能・効果**：
しゃっくり、胃腸虚弱

**原典**：万病回春
**出典**：寿世保元

**解説**：
本方は柿蒂湯よりも弛緩性体質で虚弱なものに使用される。原典の『万病回春』には生姜が加えられた処方が記載されている。

## 147.丁香柿蒂湯

| 参考文献名 | 柿蒂 | 桂枝 | 半夏 | 陳皮 | 丁香 | 良姜 | 木香 | 沈香 | 茴香 | 藿香 | 厚朴 | 縮砂 | 甘草 | 乳香 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 処方分量集 | 3 | 3 | 3 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 診療の実際 | 3 | 3 | 3 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 診療医典 | 3 | 3 | 3 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 症候別治療 | 3 | 3 | 3 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 処方解説 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| 後世要方解説　注1 | 3 | 3 | 3 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 漢方百話　注2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 応用の実際 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| 明解処方 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |

注1　胃の虚寒によって吃逆を発したもの。

注2　常に胃腸虚弱で下痢しやすく，全体に弛緩性体質の人の連続する吃逆。腹は軟らかで脉はすこぶる弱い。

参考：万病回春には「主治に言う，胃口虚寒，手足冷え脉沈細，是れ寒吃なり此方之を主る」とあり。

**処方番号**：148　　**処方名**：釣藤散（ちょうとうさん）

**処方構成**：
釣藤鈎 3、橘皮 3（陳皮も可）、半夏 3、麦門冬 3、茯苓 3、人参 2、防風 2、菊花 2、甘草 1、生姜 1、石膏 5-7

**用法・用量**：
湯

**しばり**：
体力中等度で、慢性に経過する頭痛、めまい、肩こりなどがあるものの次の諸症

**効能・効果**：
慢性頭痛、神経症、高血圧の傾向のあるもの

**原典**：普済本事方
**出典**：

**解説**：
本方は虚証の気の上衝の激しいものに用いる薬方であり、用いる症状は気分が重く、頭痛のするもの、朝方目覚め時に頭痛のするもので、気の上衝からくる肩こり、耳鳴り、眩暈、頭痛、眼球結膜の充血、などの神経症状を訴えるものに用いる。中年以降に適用の機会が多い。
『方函類聚』に「癇症の人気逆甚しく頭暈し或は肩背強急目赤く心気鬱塞者を治す」とある。

## 148.釣藤散

| 参考文献名 | | 釣藤鉤 | 橘皮 | 半夏 | 麦門冬 | 茯苓 | 人参 | 防風 | 菊花 | 甘草 | 乾生姜 | 石膏 | 陳皮 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 処方分量集 | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 5 | − |
| 診療医典 | 注1 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 5 | − |
| 症候別治療 | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 5 | − |
| 処方解説 | 注2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 5〜7 | − |
| 後世要方解説 | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 5 | − |
| 応用の実際 | 注3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 5 | − |
| 明解処方 | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 5 | − |
| 漢方処方集 | | 3 | − | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 1 | 1 | 3 | 3 |
| 漢方入門 | | 3 | − | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 1 | 1 | 3 | 3 |
| 診療の実際 | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 5 | − |

注1 中年以後の神経症で，やや虚状を帯び，頭痛，眩暈，肩こり，肩背拘急などを主訴とするものに用いる。いわゆる癇症という神経質のもので，上衝がひどく，常に訴えが絶えず，朝方あるいは午前中に頭痛するというものを，目標として用いることが多い。

注2 むかしいわゆる癇症といった神経質のもので，気の上衝がひどく，頭痛，眩暈，肩背拘急，眼球結膜が充血し，神経症となって常に鬱陶しいものに用いる。朝方頭痛するということを目標にすることもあるが，必ずしも決定的なものではない。

注3 老人の頑固な頭痛で，めまいを伴うものによい。梧竹楼口訣には，「肝厥の頭痛，頭暈(めまい)を治す。その症，左のこめかみから眼尻にかけて痛むものによくきく」とのべている。崇蘭館試験方口訣によると，「肝厥頭暈というのは，上衝（上につき上げる症状）があって怒り易いものである。したがって抑肝散の証に似ていて，頭痛，頭暈するものに本方を用いるとよい」と記している。

**処方番号**：149　　**処方名**：猪苓湯（ちょれいとう）

**処方構成**：
猪苓 3、茯苓 3、滑石 3、沢瀉 3、阿膠 3

**用法・用量**：
湯

**しばり**：
体力に関わらず、排尿異常があり、ときに口が渇くものの次の諸症

**効能・効果**：
排尿困難、排尿痛、残尿感、頻尿、むくみ

**原典**：傷寒論、金匱要略
**出典**：

**解説**：
五苓散の桂枝と朮の代りに滑石と阿膠を入れたものである。
本方中の薬物はどれも利尿の効果があるほか、尿路の消炎作用があると考えられ、泌尿器疾患に応用される代表的な処方である。

## 149.猪苓湯

| 参考文献名 | | 猪苓 | 茯苓 | 滑石 | 沢瀉 | 阿膠 | 用法・用量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 処方分量集 | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | *1 |
| 診療の実際 | 注1 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| 診療医典 | 注2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| 症候別治療 | 注3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| 処方解説 | 注4 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | *2 |
| 後世要方解説 | | − | − | − | − | − | |
| 漢方百話 | | − | − | − | − | − | |
| 応用の実際 | 注5 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| 明解処方 | 注6 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | |

*1 猪苓、茯苓、滑石、沢瀉各3を煎じ滓を去り、阿膠3を内れ、再び火に上せ、溶解しつくすを度として火より下ろし温服する。

*2 水600ccをもって、阿膠以外の4味を煮て300ccとし、滓を去って、阿膠を加えて溶解させ、3回に分けて温服する。一般には各4-5とし、そのまま煎じている。

注1 利尿の効があり，尿路の炎症を消退させる。腎炎，腎結石，膀胱尿道炎，淋疾に用いて能く尿量を増し血尿を止め，尿意窘迫，排尿時の疼痛を治す。腰以下の浮腫。

注2 尿の淋瘧，排尿痛，尿利の減少，口渇のあるものの膀胱炎，尿道炎，淋疾，尿路結石，腎盂炎，腎炎。

注3 口渇と尿不利があって不眠を訴えるもの。膀胱炎，尿道炎，腎石，膀胱結石などで尿の出にくいもの。排尿痛。

注4 脉浮，小便不利，小便難，あるいは心煩(胸苦しい)，渇を目標。腎炎，ネフローゼ，腎石症，膀胱結石，膀胱炎，尿道炎，尿意頻数，排尿痛，腎盂炎，小便不利。

注5 尿量が減少し，尿が出にくく，あるいは尿が滴瀝し，排尿の際尿道が痛んだり，排尿の後で痛みや不快感が残り，口渇があるもの。膀胱炎，尿道炎，尿路結石，腎炎，ネフローゼ，腎盂炎，腎臓結核，尿利減少。

注6 尿量減少，排尿困難，浮脉，舌湿潤，軽度の口渇。排尿痛，残尿感，排尿回数が多いなど。

**処方番号**：149A　　**処方名**：猪苓湯合四物湯（ちょれいとうごうしもつとう）

**処方構成**：
当帰 3-4、芍薬 3-4、川芎 3-4、地黄 3-4、猪苓 3、茯苓 3、滑石 3、沢瀉 3、阿膠 3

**用法・用量**：
湯

**しばり**：
体力に関わらず、皮膚が枯燥し、色つやが悪く、胃腸障害のない人で、排尿異常があり口が渇くものの次の諸症

**効能・効果**：
排尿困難、排尿痛、残尿感、頻尿

**原典**：本朝経験方
**出典**：

**解説**：
名称通り猪苓湯と四物湯の合方である。猪苓湯の証でややこじれたものに使用する。

## 149A.猪苓湯合四物湯

| 参考文献名 | | 当帰 | 芍薬 | 川芎 | 熟地黄 | 猪苓 | 茯苓 | 滑石 | 沢瀉 | 阿膠 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 処方分量集 | | − | − | − | − | − | − | − | − | − |
| 診療の実際 | 注1 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 診療医典 | 注2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 症候別治療 | 注3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 処方解説 | | − | − | − | − | − | − | − | − | − |
| 後世要方解説 | | − | − | − | − | − | − | − | − | − |
| 漢方百話 | | − | − | − | − | − | − | − | − | − |
| 応用の実際 | 注4 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 明解処方 | | − | − | − | − | − | − | − | − | − |

注1　腎結核，膀胱障害を起こして，尿意頻数，排尿時疼痛を主とするものに用いる。腎臓剔出後になお膀胱障害の残存しているものにもよく効く。

注2　腎膀胱の結核で，衰弱のはなはだしくないもの，胃腸障害のないもの。

注3　排尿異常。

注4　腎臓結核。

**処方番号**：150　　**処方名**：通導散（つうどうさん）

**処方構成**：
当帰 3、大黄 3、芒硝 3-4、枳実（枳穀でも可）2-3、厚朴 2、陳皮 2、木通 2、紅花 2、蘇木 2、甘草 2

**用法・用量**：
湯

**しばり**：
体力中等度あるいはそれ以上で、下腹部に圧痛があって便秘しがちなものの次の諸症

**効能・効果**：
月経不順、月経痛、更年期障害、腰痛、便秘、打ち身（打撲）、高血圧の随伴症状（頭痛、めまい、肩こり）

**原典**：万病回春
**出典**：

**解説**：
駆瘀血剤。古方の桃核承気湯に比すべきものである。皮膚に打撲による損傷があまりみられないものでも、皮下組織や組織臓器に障害をきたし、皮下出血が広範囲に及んでいるような症状のものの、出血を早く吸収させるに用いる。

## 150.通導散

| 参考文献名 | | 当帰 | 大黄 | 芒硝 | 枳実 | 枳殻 | 厚朴 | 陳皮 | 木通 | 紅花 | 蘇木 | 甘草 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 診療医典 | | 3 | 3 | 4 | 3 | − | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 治療の実際 | 注1 | 3 | 3 | 4 | − | 2 | 2 | 2 | 2 | 3 | 2 | 3 |
| 処方分量集 | | 3 | 3 | 4 | − | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 一貫堂医学 | 注2 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |

注1　打撲傷……これは昔体罰によって杖を以って打たれ，皮下出血が広範囲におよび，興奮により心下部が衝き上げられるというようなときに用いられた。みぞおちから腹筋の緊張がおこり，胸が苦しく圧痛のあるものに本方はよい。

墜落，追突のときもこんな症状がよく現われるが，本方を服用すると黒便を下し，出血は早く吸収される。

注2　通導散は打撲による瘀血駆除剤であるが，打撲に限らず，いかなる原因の瘀血でも，それが通導散証を現わす場合はこの方で治すべきである。故に本方は打撲傷の場合よりも，むしろ内科的疾患，とくに婦人科疾患に多く用いられるようになっている。

脳溢血，片麻痺，喘息，胃腸病，肺結核，痔疾，淋疾，神経性疾患，動脈硬化症，常習性便秘，歯痛，眼病，腰痛，脚気，泌尿性器疾患，バセドウ病，中垂炎，発狂，心臓病等である。

また婦人科の疾患では，その病気のほとんど全部に駆瘀血剤を運用するが，とくに子宮，喇叭管，卵巣の炎症ならびに腫瘍に用いている。

**備考**：成書に書かれていないが，一貫堂家方を踏襲する実際家の間では，上述処方に牡丹皮，桃仁，各1の2味を加えるものとしているという。